

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201702		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街東新田		
所在地	静岡県駿河区東新田4丁目16番2号		
自己評価作成日	平成24年1月12日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274201702&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフのモチベーション向上に力を入れており、明るい雰囲気の中でサービスを提供させて頂いており

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静岡駅より郊外に車で約15分、安倍川右岸の畔にほど近く、商店・住宅が混在する場所に小規模多機能も備えてホームはある。病院の看護師実習も受け入れ、職員の対応向上や看護師の認知症理解にとメリットを享受している。開設以来の職員はいないが、最近では職員の定着も高く利用者へのサービスが向上してきていると管理者は考えている。「ここだから預けたんだよ」と言ってもらえることを目指し、管理者・職員が向き合い活発な意見交換や企画立案に真摯に取り組んでいる。職員が年越しそばに挑戦する姿や、様々な行事を立案し家族をダイナミックに巻き込んでいる姿勢が大いに評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしくという理念の基、利用者・職員共に顔なじみの関係を築き、個々の現在出来る力を引き出しながらその人らしい生活が出来るよう努めている。	職員で作られた「その人らしく」という理念は職員個々の意識を高めることに役だっているという。ほかにも、職員は今年度の目標と自己PRを作成して、達成と反省の度合いを確認しながら取り組んでいる。また、管理者は現職員での新理念を考慮中で積極性が見てとれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の散歩や買い物等外出の機会を設けている。	自治会に加入し、回覧板の受渡しや地域の清掃・防災訓練へは利用者とともに参加し、円滑な関係ができています。駐車場でフリーマーケットでは金魚すくい、たい焼き、おでんも提供され100人程の来所をみた。小・中学生の体験学習の受入も5年以上になり定着化している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加等で、認知症への理解をして頂けるよう交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、施設報告・話し合いを行っている。出席者からの意見を汲み取るよう努めている。	2ヶ月に一度の運営推進会議には町内会長・民生委員・組長・市職員・地域包括支援センター及び家族代表複数名が参加している。出席者からは防災に関しての緊急連絡や救援態勢などの意見をもらっていて、家族からは悩みや不安などの相談も挙がり、相互に役立つ意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見交換はあるが、日頃からの連絡までには至っていない。	議事録は市にFAXで行っていて、市窓口との連携は向上しつつある。また地域包括センター主催のグループホーム担当者会議にも参加している。会議は2〜3ヶ月に一度開催があり実りある意見交換がなされ、職員会議にも問題をおろして改善に繋げている。	議事録を市へ直接届けることで今後の事業所の取り組みの積極性を汲み取ってもらい、協力関係がよりよく築かれることが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を通じ職員への理解を周知すると共に、身体拘束をしないケアを心がけている。	身体拘束ゼロをめざし日中の施設はしていない。研修は本部のスケジュールに沿って年に一度は行われ、外部研修にも参加をし、施設内ではスピーチロックも含め随時話し合いが持たれている。利用者の安全・緊急上やむをえない場合の同意文言は介護計画の中に入れ込まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通じ知識を学び、日々のケアの際注意深く観察、虐待の防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援・成年後見制度について学ぶ機会を持ち、関係者との話し合いの基活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を用い、説明すると共に理解できたか否かを確認する様心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族より意見を伺う場を持ち、運営に反映出来るよう心がけている。	管理者は家族のニーズだけでなくウオンツを聞き取るよう努め、また職員にも速やかに伝え改善している。クリスマス会・餅つき・年越しのそば打ちなど家族が多数集まる中でも運営に活かされる意見をもらえている。取り組んだ結果報告も家族におこなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼やミーティングの際、職員からの意見・提案を聞き、運営に反映させている。	「認知症には珈琲がいいらしいね」などと、職員は会議中でも気軽に発言していて、職員が意見や提案を言いやすい環境が整っている。職員との個別面談は随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の際、職員が自己評価をし勤務状況の把握をしている。それにより職員の能力を開発し、個々の適正を見出し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で採用研修や経験に応じた研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の意見交換会に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースに合わせ、意見を聞き安心出来る関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しても要望に耳を傾けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から意見を聞き最優先する課題を見極め、サービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活ペースを大切にし、出来る限り自分の力で生活し、出来ない所を支援しながら共有の時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々家族と情報を交換・共有しながら家庭での生活がより良く出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活を大切にし、馴染みの関係が途切れないように支援している。	行事で職員のハンドベルに合わせてキーボードを弾きコラボする利用者、色紙を使った張り紙の大作を作る利用者もあり、趣味への支援が充実している。毎日の面会者もいて、面会者が訪問しやすいことが覗える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるよう職員が間に入り、また、コミュニケーションが取れない方には職員が声を掛け雰囲気に馴染める様心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族から様子を伺い、関係を断ち切る事無く適宜相談・援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意向を大切にし、出来る限り本人の意向に沿うよう努めている。	利用者の発語をそのまま経過記録に記入し、また身体状況や表情、食事の状況等の変化から思いを汲取る支援がなされている。誕生会では生花のブーケを贈ったりと、利用者本位にとの思いが管理者に強い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での様子、前サービスの利用状況等ケアマネージャーを通じ収集すると共に、本人・家族とも関わりを蜜にし情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに関わる時間をもち、心身の状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、ケアマネージャー・職員・家族間で現状や課題等を話し合い、意見をまとめ作成している。	担当制のもと、利用者や家族との日頃の関わりの中でアセスメントを行い、毎月のカンファレンスではヒヤリハットも含めて意見を出し合い、家族の意見も取り入れた介護計画を作成している。また、現状を反映した介護計画になるよう定期見直しも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録表により職員間で情報を共有し、ミーティング等の意見交換により、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況を把握し、その時々に応じた柔軟な対応が出来る様努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幅広い資源を活用し、穏やかな生活が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医に定期受診をお願いしており、常に連絡を取り相談支援をしている。	協力医の往診も週に一度あり、夜間対応もしている。入所前からの馴染みの医師による継続受診の利用者も数人おり、利用者と家族の安心に繋がっている。受診結果はケアマネージャーが申し送りノートならびに経過ノートに記入し、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での些細な変化も記録・口頭により伝達し、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・往診の医師との連絡を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際、施設で対応出来る限りの事を説明し、関係者と協力しながら穏やかな終末期を送れるよう支援している。	重度化に関してホームでの対応が可能か不可能かを契約時に説明し同意書ももらっている。家族の希望で看取りに近い状態の利用者のケアをしたこともあるが、今後は家族・親族、医師、管理者・職員の連携をもった取組ができるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修等を通じ学習する機会は設けているが、定期的な訓練を行うまでには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災等に参加し、協力等を呼び掛けているが体制は確立されていない。	年2回防災訓練を行っている。地域の訓練にも参加し関係が図られつつあるが非常時の協力体制はまだ確実ではないと管理者は考えている。飲食や防災用品の備えはあるが、夜間想定訓練はまだ行っていない。	夜間想定訓練の実施が行われることなど、防災訓練のさらなる充実を期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー研修等を通じ利用者への接し方、声掛け等を勉強し、適切な対応に努めている。	言葉かけや優しい対応への配慮が利用者との関わりの中で確認できる。年1回開催される接遇マナー研修の成果の現われと思われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を最優先に考え、それが実現できる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々の体調・状態等を考慮し、どのように過ごしたら良いか希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り御自分で選んで頂き、その人らしさを引き出した支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事の際には希望を聞き献立に取り入れている。準備や片付け等出来る所は手伝って頂けるよう心がけている。	利用者の希望を取入れながら、家族と相談してメニュー作成に取り組んでいる。職員手作りの年越しそばやおせち、焼津から新鮮な魚の調達、週2回くらいの手作りおやつ・パン、希望者には珈琲も提供されていて、多様な取組が覗える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の個々のペースに合わせ摂取量が少ない方に対して、こまめに水分を取ったり、間食を摂る等工夫し栄養確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人で出来ると思われる方でも仕上げ磨きを行い、口腔状態を確認する様努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツの使用は避け、尿意が無くても定期的にトイレへ誘導している。	排泄パターンを把握し、日中はリハパンで過ごす利用者が増えてきている。パットの利用者も見守りの中で訴えのサインを見逃さず、タイミングよく対応するため失敗がなくなった。便秘予防の水分チェックも欠かさず、水分摂取でむせる利用者には水を細かい氷状に、また牛乳寒天にして飲んでもらう工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、まずは水分補給や運動で自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や、希望に沿い支援している。	本人の希望に沿い毎日入浴の利用者もいる。過半数の利用者は1日おきの入浴となっている。マンツーマン介助で、3種類の入浴剤を活用して温泉気分での入浴が楽しめている。2人に1回ペースでお湯の張替えが行われ、足拭きタオルは個々に用意され清潔にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを優先し、個々の体調・状況を考慮し楽しく過ごして頂けるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書にて確認。変更時もチェックし薬の情報を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦を参考にし、歌・手作業・裁縫等個々の得意とする事を見出し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の意向に沿うよう散歩・買い物等付き添っている。季節行事やイベントを通じ日頃出掛けられないような場所へも足を運んで頂けるよう計画を立てている。	状態の低下で徐々に家族と出かけることは減っているが、職員との初詣や海岸ドライブの機会はある。春に向けていちご狩りや梅園見学も予定されている。週2回の食材買い物に利用者も同行し、公園近くへの散歩も日常行われている。移動ベーカーリーは利用者に好評で好みのパンを購入している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にはお金は所持していないが、外出時など買い物をする機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	意向により電話は取り次ぎ話す事が出来るようにしている。お便りを定期的に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に季節に応じた作品を作り掲示する等居心地の良い空間作りを心がけている。	干支にちなんだ龍の大作が階段の壁に掲示されていたり、居間にも利用者作品があり、新年の雰囲気活きずいている。温度湿度がエアコンや加湿器で調整され、換気は1日3回行われていて、居心地よく過ごす工夫がみとれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が間に入ったりしながら居場所の確保を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込み、本人が安心し、居心地良く過ごせるよう支援している。	利用者の馴染みのものが持ち込まれ、個性ある生活感が感じられる。利用者自身が作った精巧な紙の飾りものなどがセンスよく配置された居室には、太陽に好かれたかのような暖かさと明るい日差しが満ちていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせ、安全で穏やかな生活が出来る様努めている。		